

早期景気観測調査 新潟商工会議所管内 3月分 各業界からのコメント

◎建設業

- ・2年に亘る長期工事が年度末に竣工する事で、完成工事高が増加する予定。
- ・今月、来月と例年より売上は多くなっている。それ以降は例年通りとなるため今後3か月は「悪化」とした。物価高や人材不足により、人を確保するための経費が増えてきており、収益を圧迫している。ただ仕事量はあるため、仕入れ価格の上昇等は発注者に見てもらえれば採算は確保できるような状況。
- ・ガソリン、灯油をはじめボイラー燃料が高騰。それに伴い顧客先の生産コストが上昇し結果的に利益減となり、設備費を控えるという状況である。当社もメーカーのように物価高騰に伴う値上げを実施したいが難しい。付加価値を高め、売上・利益維持につながる方策を検討しなければならない。
- ・工事物件の減少が続いている。資機材値上げ・諸物価の高騰の影響から設備投資の延期、控えの状態となっている。金利の上昇、人手不足による人員採用の費用も増加傾向となっている。

◎製造業

- ・去年の暮れから新入社員が2人入った。年齢は40歳くらいだが、どちらもしっかりとした考えを持ち、前向きに取り組んでくれている。10代、20代とは違うが、良い人に巡り合えたなと思っている。
- ・自社の業況も心配は尽きず、ガソリン価格、米価格、最低賃金の高騰など世界情勢の変化、気候の変化、それぞれが激しく日々変化する。原材料高騰に至っては価格転嫁もなかなか厳しい業種でもあり、先行きも不安を抱えている中、経営者、従業員一体となり頑張っている。老いていく者がどこまでデジタルに追いついていけるのか。日々勉強。

◎卸売業

- ・原材料の高騰を売価転嫁することが追い付かず苦戦。人手不足により事業が計画通りに進まない。
- ・連日報道されているキャベツ、白菜は高値販売が続いており、青果物の平年価格は高い値段となっている。今後の春夏野菜出荷状況次第では長期間影響を受けそうである。
- ・物価高で困っている。
- ・飲食料品の値上げ及びアメリカの関税状況によって、どのように変化するのか予測がつかない。まさにカオスである。

◎小売業

- ・小売業界では、光熱費や生活必需品などの継続的な物価上昇に対して、実質賃金の上昇が伴っておらず、消費者の生活防衛意識は依然として高い状態が続いている。それに加えて、人件費や物流コストも上昇している。さらには業種、業態の垣根を超えた競争もあり、引き続き厳しい経営環境が続いている。

◎サービス業

- ・物価高騰による価格転嫁について、既存ユーザーの理解が得られたことで売上・利益ともに順調に推移してきている。
- ・船員不足が深刻な状況で、人手不足に加え原材料高騰、燃料高騰など状況が非常に厳しい。
- ・人手不足が続いているが、春は人が動く時期でもあるため、採用に力を入れていきたい。
- ・従業員の体調不良による欠勤が多く、人手不足のため売上が減少。
- ・3月1日より2026年卒の就職活動が解禁されたが、昨年度と比較すると採用応募者が減っていることから採用活動に不安を感じている。

- ・今期は前期あった大型案件の予定が無いため、売上は減少すると思われる。光熱費・仕入値が上がり続けているため、商品の価格見直しと値上げを計画立てて行いたい。
- ・当社の主力食材の米価格の上昇傾向は止まらず、備蓄米放出でも解決できない状況が続く。人件費の負担、物価の上昇で収益は圧迫されていく。家計の消費意欲は生活費の上昇で停滞していると思われる。
- ・全てにおいて、値上げが行われており、利益が減ってくる事が予想される。
- ・週末からスタートした3月であるが、夜の人流が思わしくない。諸物価高による影響と思われるが、頻繁に出される悪天候の予測も影響していると思われる。これからの歓送迎会開催が活発に行われることに期待したい。
- ・前年は北陸応援割など旅行需要喚起施策があったが、当年はそれらの期待ができない。
- ・ヨーカ堂が閉店し来場者減少。夏オープンのロピアに期待する。
- ・今年の冬は各地で雪による道路の予防的通行止めがあり、幹線便の運休を余儀なくされている。集配への影響も出ており、収益を圧迫されている。